	工 法	名			D-TE	C PI	 L E 工法						
L-1	工法	名			П	転貫入工	 法						
	工法の程	重類				鋼管杭							
	概	要	本工法は、鋳鋼 れる杭を施工機械! 従来の鋼管杭工 ていた。これらは、 掘削刃、先端翼部! びコスト低減を図 構造用炭素鋼管に。	こより回転貫力 去では、鋼材を 、形状の自由度 品を鋳鋼成型す るものである。	、し、基礎 成形加工 をに制限、 ることで 抗は、鋳	下部に配 した掘削 材料の無 、上記問 鋼製の杭	置する工法でも 刃、先端翼など 駄、品質管理 <i>0</i> 題を解決すると 先端部品と一般	ある。 ごを鋼管に溶接 D問題があった こともに、施工 投構造用炭素鋼	して取り付け 。本工法は、 性の向上およ 管または建築				
施工法	施工順	序		り抗硬で込み		元皇 X	3 施工 時 回 転	> II.					
				①杭建て込み ②回転貫入 ③施工時回転トルク による打止め管理									
	支持力発現	方式	杭先端翼による先輩	端抵抗及び杭居	面抵抗								
支 持 層	の確認方	法	杭回転貫入時の施工	工機械回転トル	ク値								
支持力	」 算 定 方	式	\overline{N}' \overline{Ap} β_{sw} $\overline{N_s}'$ Ls γ_{sw} $\overline{N_C}'$ Lc ψ :	・: 杭種に応の に : 杭先端にのの は : 杭先種に砂質に : 杭杭種が砂に : 杭杭種が種が : 杭杭 N' ≦ 8 、 と : 杭が面 1 と で : 杭が面 1 と で : 杭が面 1 と で : 杭が面 1 と で : 杭が 1 と で : 杭 1 と で : ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	た 大 大 大 大 大 大 に 接 す 持 は に 接 す 持 す る は に は を は を は を は る も の の の の に は す 持 す る の の の の の の の の の の の の の	系数 (N'≦30 (N'≦30 (N') (N') (N') (N') (N') (N') (N') (N')	D平均値(N'≦ (m) の平均値 きは、N'=0) (m)		- ス悍 今)				
				性に心しに又	支持力係数	(スクリニ	上一・ノエイト貝	八 試験 桁 未 I ~ c	杭周長∜				
			杭種	αsw	βsw	γsw	の範囲	Ap(m2)	(m)				
			ストレート互		3.2	7.4	杭先端より上へ 4d,下へ1d 杭先端より上へ	$\pi \left(d/2\right) ^{2}$	π d				
			拡底型	130	1.8	3.0	1.3Dw, 下へ0.7Dw	$\pi \left(Dw/2 \right)^2$	π d				
			多翼型	100	2.7	6.5	杭先端より上へ 1.3Dw, 下へ0.7Dw	$\pi \left(Dw/2 \right)^2$	π D				
施工	施工地		-										
	施 エ 能 要が分かるホ	-	150~200 m/日										
	のアドレス等		https://www.gbrc.	<u> </u>			<u> </u>	· ·	· ·				
大和ハ	会社名 ウスエ 美	業(株)	性能証明番号	取得年月	1 	適用杭径	適用先端地	2盤 適用杭县	長 備考				
TEL:0742-	-70-2188 ′www. daiwaho		(財)日本建築総名 試験所 性能証明 第02-20号 改	(財)日本建築総合 試験所 性能証明 2006.5.9									

	エ	—— 法	<u> </u>	名			V — D I I		エック	 フスパイル工法)				
			-				X F I L							
L-2		法の						回転賃		法				
	概	<u></u>		要	に回転貫入る 先端部品は、 翼型の3種類 SWS 試験(旧	せる工法 掘削刃が から地盤 スウェーラ	である。 i付いたストレー 状態に合わせて	r製した先 ト型、螺旋 選択できる ング試験)	状の ^翼 る。 結果を	品を鋼管に取りた 翼が付いた拡底型 を支持力算定に である。	型、拡底に中間類	愛を付けた多		
施 工法	施	I	順	序	基礎地盤 支持地盤 施工位置確認 ·機械設置		は打ち込み場所 認調管杭取付	支持地盤網管杭回転圧			盤確認 レベノ	込 み 完 了 レ 調 整 王 入 工 法		
	支持	力発:	現方	式	杭先端翼による先端抵抗									
支持層	の	確認	,方	法	杭回転貫入		機械回転トルク値	<u> </u>						
支 持 2	力	定	方	式	$R_a = \frac{1}{3}$ 記号 α_{SW} , N' : A_P N_S' , N L_S , N ψ :	α _{sw} -N' β _{sw} , γ _s 杭先端に W _{sw} : s N _c , : 砂 -c : の 切 -c : の 場合	・A _P +(β _{SW} ・N _S W:支持力係数に おける SST 強 STの荷重(kN SSTの1m貫入 有効面積(m²) 質土, 粘性土に 質土, 粘性土に 長(m) は, N'をNに読	· · L _s + γ ; は表-1 に示 度インデッ) .当たりの当 (拡る部分 接する部分	w・マクロ ・ターの ・ターの ・大学 ・大学 ・大学 ・大学 ・大学 ・大学 ・大学 ・大学	D平均値 N'=3 数 型は先端翼面積 ける SST のN'	BW _{sw} +0.0051	杭周長 ψ(m) πd πd πDw		
<地盤調査方法> SWS 試験 (旧スウェーデン式サウンディング試験) は エ 地 盤 強固な中間層がある場合または砂礫・玉石混じりの地盤の場合は要検討。														
施工		工 : 工 :		盤 率	強固な中間			・玉石混し	ごりの	地盤の場合は要	段検討。			
公害	騒音	(音源よ	: 9 30i	n)	70デシベル 60デシベル	ル以下 ル以下	ュ 経音で環境に優	しい鋼管板	亢です	•				
	会社	名			性能証明	 番号	取得年月日	適用杭	径	適用先端地盤	適用杭長	備考		
	商事村-2935				(財)日本建築 試験所 性能 第03-0	能証明	H16. 11. 4	φ101. 6 φ267. 4r		砂質土、礫質	± 130 d かつ 25m以下	_		

	 エ 法	名		I	SGパイルエ	 法						
L-3	工法の種	類			回転貫入工法							
	杭の種	類			——— 鋼管杭							
	概	要	ISG パイル工法(伊田テク 建築技術性能証明を 15 年で 工法である。ISG パイルの ISG 先端閉塞型拡底翼(軸 翼を鋳鋼部品として一体成 一戸建て専用住宅を中心 適している。N値 10 以上の も優れている。	3 月に取得し、 大きな特徴は 部材の杭種は 型とすること に 3 階建て程	、23 年 2 月末 、「ISG 先端 6 種類「φ10 で、施工性の 程度までの小規	現在で 2971 閉塞型拡底翼)1.6mm〜 φ21)向上とコス 見模構造物、	棟の施」を採 6.3mm」 ト低減を 比較的(工実績を収 用したこと)は、掘削 を実現した。 低い L 型擁	めている にある。 刃と先端 壁などに			
施工法	施工順	÷ T	これらすべての管理をする	みを ②鰤 めま ③材 認、 ④材	i 1 本ごとに 管理して行き iの施工精度の	生、貫入状況を 打込み長さ、 きます。 D確認を行い	を確認し回転トます。	ながら作業	を進			
	支持力発現方:	弌	杭先端翼による先端抵抗	らすべての管理をする事により高性能、高品質な施工をご提供する。 端翼による先端抵抗								
支持層	の確認方	法	杭回転貫入時の施工機械回	転トルク値								
支持力	〕 算 定 方	式	$Ra=rac{1}{3} \left\{ \begin{array}{l} lpha_{sw} \ \overline{N'}Ap + \left(\begin{array}{l} eta_{sw} \ \overline{N'}Ap + \left(\begin{array}{l} \ \overline{N'}Ap$	支持力係数 へ 1. 3Dw、下面積(m ^a)	$(\alpha_{sw} = 115^{*7}$ $\sim 0.7 \text{Dw} 間の$ $Ap = \pi \text{Dw}^2/\Phi$ Φ $14.3 $	N'の平均値 (4 8 165.2 400 カューデン式サウンディング 智 (N' ≦20) (N' ≦8、Wsw・	i(N'≦:	30) 7 216.3 500 合)	., N' =0)			
施工		监	強固な中間層がある場合ま				、要検言	া				
工法の概要	施 エ 能 き		200~250m/日 https://www.idatechnos.c	o. jp/kisogi	jutu/isgpile	html						
ページのこ	アドレス等 		性能証明番号	取得年月日	適用杭径	適用先端	抽般	適用杭長	備考			
	<u> </u>		(財)日本建築総合試験所性能証明 第 02-21 号	H15. 3. 4	φ 101.6 ~ 216.3mm	砂質土、砂		130Dかつ 22m以下	CJ. HIN			

	エ	ž	去	名			ΤG	-m工法		
L-4	エ	法(り種	類			回転	貫入工法		
	杭	の	種	類			釗	岡管杭		
	概			要	を杭状地盤補強材 本工法の特徴は の先端翼を持たせ にロックし、支持	けとして利用す は、施工に際し け、掘削刃は、 持力に寄与する に端部と軸鋼管	る技術である 補強材周辺の 推進力を高め 形状としてい の接続にテー	。 地盤を乱す影響が るだけでなく、荷 る。 パー状の接合用部	する杭状体を回転貫力 少ない独自形状のス/ 重がかかった場合に、 品を用いる場合は、ダ	ペイラル状 支持地盤
施工法	施	I	順	序		・ト ◆圧入力	支持層 垂直度を確認 および回転力を与え に回転買入させる	下ぐいを適当な位中ぐい・上ぐいを次		
	支持	寺力多	光現方	式	先端支持力+周面	 摩擦力				
支 持 層					トルク管理					
支持力] 算	正 定	方	式	R _u :補詞 R _u = α _s ·N R _s : 補強材θ βs : 補強材θ γs : 補強材θ νε : 補強 α N : 補強材θ N : 補強材θ N : 補強材θ L : 補強材θ	強材の長期許額 強材の長期許額 面材の極限鉛配 「・A _p +(β _s ·N の先端のの周のの間のの地が のののののののののののののののののののののののののののののののののの	Γ_s · $\Gamma_$	・L。) ψ (kN) 補強材先端支持力値 也盤における補強和 也盤における補強和・は、 β s、 γ s $=$ 0 也盤の SWS 試験に	オ周面摩擦力係数 (/ オ周面摩擦力係数 (/ オ周面摩擦力係数 (/ とする。 とする。 よる平均換算 q _u '値(kM 長さの合計(m)	$\gamma_s = 0.2$
施工	施	I	地	盤	建駐車、クローラ	一式、小型バ	、 ックホウで施	エできる		
	施	エ	能	率	小型機械のため高	弱効率				
工法の概要が分かるホー ムページのアドレス等 http://www.tg-pile.jp										
	会社	t名			性能証明番号	取得年月日	適用杭径	適用先端地盤	適用杭長	備考
タイガーi http://ww p				o. j	GBRC 性能証明 第 14-31 号	2015年3月4日	鋼管外径: 76.3~ 216.3 mm	砂質土、 粘性土	鋼管外径の 130 倍 以内かつ 20m以内	

	エ		±	名			A1.4====	- \-\ /		
								エ法(ストレート型)		
L-5	エ	<u> </u>		名				云貫入工法 		
	エ	法 0) 種	類		1		鋼管杭	<u> </u>	lm >= ··
	概			要		力を加えながとして利用する 先端部の底板打設時の回転す。また、安気	ら回転させる る工法です。 を、掘削刃を一 を力に対して とした支持力を	ことよって地盤中に貫 先端部の補強材は、安 - 体成型の鋳鋼品とし 剛性を高めた形状に。	溶接接合したものを、れたさせ、これを杭状地盤に 定した品質を確保するたています。先端部の掘削にり貫入性の向上を図っして、掘削刃の高さが軸に	補強材 :めに、 刃は、 ていま
施工法	施	I	順	序	1)<1	いの建て込み	②くいの回転	貫入 ③継手の施工	4打設完了	
	支持	寺力角	き現プ	5式	先端抵抗と周面			9421 9 75	37,275	
支 持 層					回転貫入時の回			 たりの貫入量		
支 持 丿		定	方	式	Ls :補強材のF N'c :補強材の Lc :補強材の φ :補強材の α Ap:補強材の	4 _P + (β _{SW} N' _S L) 先端支持力係勢 先端付近の N' 盤における周面 盤における周面 周囲の地盤の 周囲の地盤の 司囲の地盤の 司囲の地盤の 司囲の地盤の 電力	放 値の平均 「摩擦力係数」 「「「「「」」」」」 「「「」」」」 「「」」」 「「」」」 「「」」」 「「」」」 「「」」 「「」」」 「「」」」 「「」」」 「「」」」 「「」」」 「「」」」 「「」」」 「「」」」 「「」」」 「「」」」 「「」」 「「」」」 「「」」」 「「」」」 「「」」」 「「」」 「「」」」 「「」」 「」 「	窓の N'値の平均 とに接する有効長さのでという。 をといるをでする。 をはまする有効長さのです。 ははまする有効長さのです。 ははまする有効長さのです。 ははまする有効長さのです。 ははまする有効長さのです。 ははまする有効長さのです。 ははまする有効長さのです。 ははまする有効長さのできる。 310 5≦ 285 3≦ 3.6 5≦ 8.2 2≦	合計(m) 適用範囲	
+	施	I	地	盤				などの対策が必要		
施工	施	I	能	率	100m~200m/E	1				
ホームペ-	大和ランテック株式会社 https://www.daiwalantec.jp/reinforcement/alktop.html ポーター製造株式会社 http://porter-pack.com/service.html 株式会社協伸建材興業 http://kyoshin-k.com/product/process/alk.php									
	会社	上名			性能証明番号	取得年月日	適用杭径	適用先端地盤	適用杭長	備考
大和ランラ ポーター 有限会社 株式会社 東洋電業	製造物 愛協 協伸	株式会 協 建材與	社		GBRC 性能証明 第 11-16 号	2011/8/19	φ 89.1 ~190.7	砂質土地盤 (礫質土地盤含む) 粘性土地盤	130d かつ 19m 以下 (粘土質地盤は 130d かつ 16.5m)以下	_

	エ	法	名			ALKTOPI	工法(ストレート型)		
L-6	エ	 法	名						
	工法	の種	類			·			
	概		要		力を加えながとして利用する 先端部の底板打設時の回車 す。また、安気	ら回転させる る工法です。 え、掘削刃を- 云力に対して とした支持力	ことよって地盤中に貫 た端部の補強材は、安 - 体成型の鋳鋼品とし 剛性を高めた形状に。	溶接接合したものを、 入させ、これを杭状地盤 定した品質を確保するた ています。先端部の掘削 より貫入性の向上を図っ して、掘削刃の高さが軸	補強材 :めに、 刃は、 ていま
施工法	施コ	□ 順	序		いの建て込み	② (2) (2) (2) (2) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (7) (8) (9) 	貫入 ③継手の施工	4打設完了	
	支持 1	発現プ	<u> </u>				夏八 ⑤№ 1 07 № 工	11 IX/C 1	
支 持 層				回転貫入時の回			といのまえ早		
又行眉	の推	心 刀	冱	凹転貝入时の凹	世界トルグ 値また	こは「凹転の	にりの貝入里		
支持力] 算!	定方	式	Ls :補強材の所 N'c :補強材の Lc :補強材の φ :補強材の	** ** ** ** ** ** ** ** ** **	数 値の平均 i摩擦力係数 5を砂質土土地 5を粉性土土地 5を粘性土地 (m) φ = π 係数 種別: 料性土	窓の N'値の平均 図に接する有効長さの4 盤に接する有効長さの4 とに接する有効長さの4 d 310 5≦ 285 3≦ 3.6 5≦ 8.2 2≦	合計(m) 適用範囲 <u>N'</u> ≤25 <u>N'</u> ≤18 <u>N'</u> ≤20	? 倍
施工	施コ	L 地	盤	大きな礫や玉石が	ある場合には、	先行掘削なる	ごの対策が必要		
加 工	施コ	上 能	率	100m~200m/日					
ホームペー	ージアド	レス		https://www.daiwa	alantec.jp/reinfo	orcement/alkt	cop.html		
	会社名	İ		性能証明番号	取得年月日	適用杭径	適用先端地盤	適用杭長	備考
大和ランラ	テック株	式会社		GBRC 性能証明 第 17-39 号	2018/4/11	φ 89.1 ~190.7	砂質土地盤 (礫質土地盤含む) 粘性土地盤	130d かつ 19m 以下 (粘土質地盤は 130d かつ 16.5m)以下	_

	工 法 名	C一FD工法									
L-7	工法の種類	回転貫入工法									
	杭 の 種 類	鋼管杭									
	概要	本工法は、鋼管に鋼管径の 2.8 倍または 3.0 倍の直径を有する先端翼を溶接結合したものを地盤中に回転貫入させ、これを杭上地盤補強材として利用する技術である。なお、本工法による地盤補強の鉛直支持力は、基礎底面下の地盤の支持力を無視して杭状地盤補強材の支持力のみを考慮することとしている。									
施工法	施工順序	①建て込み ②回転買入 ③補強材の接続 ④施工完了									
	支持力発現方式	補強材先端掘削翼の先端抵抗による支持力									
支 持 層	の確認方法	SWS 試験結果と 1Dw 根入れ時の回転トルク、または補強材 1 回転あたりの回転貫入量									
支持力	」 算 定 方 式	Ru= α _{sw} N'A _p 記号 R _u : 補強材の極限支持力(kN) α _{sw} : 補強材先端支持力係数(α _{sw} = 300) N' : SWS による地盤の換算 N 値であり、次式によって算定する。 砂質土地盤の場合 N'=2W _{sw} +0.067N _{sw} 粘性土地盤の場合 N'=3W _{sw} +0.05N _{sw} 記号 Wsw: SWS における荷重(kN) Nsw: SWS における責入 1m あたりの半回転数(回) N' : 補強材先端付近の N'の平均値で、砂質土地盤、粘性土地盤ともに 5≦N'≤15 ただし、N'<5の場合はN'=0に、N'>15はN'=15とする。 N'の算定範囲は、補強材先端から下方へ 1D _w 、上方 1D _w の範囲とする。 ただし、N'<3の場合は N'=0、N'>25の場合は N'=25とする。 Ap : 補強材先端有効断面積(㎡) Ap=π・D²/4+0.42(π・D _w ²/4-π・D²/4) 記号 D: 補強材軸部の外径(m) Dw: 補強材先端掘削翼の外径(m)									
# T	施工地盤	粘性土地盤、砂質土地盤(礫質土地盤を含む)									
│施 エ │	施工能率	(φ114.3)100~140m/日									
	要が分かるホーム アドレス等	http://product.asachunet.co.jp/geo_technology/cfd/									
	会社名	性能証明番号 取得年月日 適用杭径 適用先端地盤 適用杭長 備考									
	-ック株式会社 vw.asachunet.co.jp/)	世能証明备号 取得年月日 適用机径 適用元端地盤 適用机長 偏号 BBRC 性能証明 第15-22 号 89.1~190.7 税質土地盤 のどちらか (礫質土地盤を含む) 小さい方									

	工法	名			ETP.	-G工法						
L-8	工法の種	類			回転貫	入工法						
	杭 の 種	類			鋼鱼	管杭						
	概	要	ることによって地 きな推進力が得ら ことに特徴があり く、通常の地盤で	2盤中に貫入されるように、対けるように、対けます。回転力はの施工では発生では、スクリュ	せ、これを杭と な底翼の一部を が推進力となり 生土がありませ 一ウエイト貫	正三角形の補助掘 : して利用する技術 : 切り欠き、30°の り地盤に貫入するの たん。また、許容支 入試験(SWS)あるい を行います。	となります 勾配で上下)で、騒音 持力を定め	す。回転貫入 に折り曲げ ・振動が極め うる際に必要	時に大 ている て少な な地盤			
			①杭の建込み	②杭芯	マット	③回転貫入	4	Tち止め管理				
施工法	施工順	亨		回転用 モータ キャッ	アーステンダーバイル		**************************************					
	支持力発現方	式	杭先端拡底翼の先	端抵抗による	支持力							
支 持 層	の確認方	去	杭回転駆動装置のトルク値と地盤柱状図を対比してトルク値と N 値の相関性を確認し、 その結果により打ち止め管理工法(トルク管理または深度管理)を設定します。 地盤で決まる長期許容鉛直支持力(kN)									
			$LRa = rac{1}{3} \; (lpha sw \cdot \int lpha sw \cdot \int lpha f$. 杭先端 Ap : 杭先端 0	- · <i>N'·Ap</i>) ·支持力係数 D有効断面積(m²) π Dw²/4	4、Dw:翼径 1Dw の範囲の N' の・	平均値					
					適用範囲と均	也盤調査方法						
			適用地	2盤 先站	支持力係数	適用範囲		地盤調査				
支持が	力 算 定 方:	式	砂質土			4≦ <i>N</i> ′≦2	0	SWS 試験				
			(礫質土: む) 粘性土:		140	- 10≦ <i>N</i> ′≦25 (3 倍 10≦ <i>N</i> ′≦20(そ		SRS 試験				
施工		盤率	強固な中間層があ 80m~150m/日			いる。						
1	D概要が分かる 一ジのアドレス	等		http://www.ko	kuei.com/kai	<u>ryo/etp-g/</u> ervice/kouji/etp _i	g/index.ht	t <u>m</u>				
会社	せ名・連絡先		性能証明番号	取得年月日	適用杭径	適用先端地盤	最大施	工深さ	備考			
08 ジ	制コクエイ 16-264-5821 オテック(株) 1-5985-8191		(一財)日本建築 総合試験所 GBRC 性能証明 第 09-19 号改 4	2019. 9. 27	φ89.1~ φ190.7	砂質土地盤 (礫質土地盤 を含む)、 粘性土地盤	※SWS 試 用いる	30 倍以下 験結果を 場合は n以下				

	ェ	注	Ę	名			暁工法			
L-9	ェ	法 σ.) 種	類			回転貫入コ	□法		
	杭	の	種	類			鋼管杭			
	概			要	本技術は、螺旋状の 地盤中に貫入させ、 である。なお、本工 て補強材の支持力の	これを杭状地盤 法による補強地	諸補強材(以下 地盤の鉛直支持	、"補強材"と称す 力は、基礎底面下	ける) として利用	する技術
施工法	施	I	順	序	Substitute No 継補 YES 継手の施 YES 公面 Substitute YES 管理 YES 「 打	▼ 工・検査 OK か 性の確認 転貫入 ▼ 果度付近に到達	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	も管理値だ	補強材を全て貫入 が得られない場合 設計者と協議すん	ilt.
	支:	持力発	現方	式 式			_			
支持層の					スクリューウエイト	貫入試験方法				
支 持 力	算	定	方 豆	ţ		Ap) _{(長期:k} i Ap) ₍ 短期:k	N)			
#	施	ェ	地	盤	砂質土地盤(礫質土地		土地盤			
・施 エ	施	I	能	率						
工法の概要 ムページの	が分	かる	ホー		https://sgl-inc.jp/	<u>/</u>				
	会社	名			性能証明番号	取得年月日	適用杭径	適用先端地盤	適用杭長	備考
株式会 092-26					GBRC 性能証明 第 19-28 号 改 1	2020 年 11 月 30 日	φ 89.1mm~ φ 190.7mm	砂質土地盤 粘性土地盤	施工地盤面よ り130D (D:本体鋼管 径)	

Γ

	エ	 法	名		=	ューバースパ・	 イルⅡ工法				
L-10	工法	の種	類			回転貫入					
		D 種									
	概		要	と、長方形の掘削補助 これを杭として利用で 本工法の特徴は、発 あり、低騒音・低振動 を使用しないことから が無い。先端拡底翼(日部材を鋼管の分 する技術である 無排土の状態であるで 動での排土力方 軸、 軸 、 軸 、 対 が は 、 は 、 は 、 は 、 は に の が の が の が の が の が の が り の が り の が り の が り の が り の り が り の が り の が い が に の に の に の に の に の に の に の に の に の に	た端に取り付ける。回転貫の大は、 回転貫ある。ではある要がはいけれる。でいまるのではいい。 一切ののではでいます。 をでいるではいる。 でいるではいる。 でいるではいる。 でいるではいる。 でいるではいる。 でいるではいる。 でいるではいるではいる。 でいるではいるではいる。 でいるではいるではいる。 でいるではいるではいる。 でいるではいるではいるではいる。 でいるではいるではいるではいる。 でいるではいるではいるではいるではいる。 でいるではいるではいるではいるではいるではいる。 でいるではいるではいるではいるではいるではいるではいるではいるではいるではいるで	施工機械も小規模でた。セメントミルでり、土壌汚染の心質接合を避け、剛性を 位置していることが 盤に貫入する場合。	, さ d e 高くしてい いら, 施工に	際し杭先端地		
施工法	施コ	<u>.</u> 順	序								
				①杭の建込み	②杭の固定	3回転	貫入 ④杭の接	続 5	完了 —————		
		発現方		拡翼による先端支持に							
支持層	の確	認方	法	貫入速度および回転	トルク値または	止入力値と土	質柱状図との比較				
				Ra	$=\frac{1}{3} \{ \alpha \text{ sw} \cdot N^{'} \cdot A^{'} \}$	Ap+(βsw·Ns'	\cdot Ls+ γ sw·Nc $^{-}$ ·Lc)	ψ }			
					記号	地盤	N'の範囲	支持力係数			
				α sw :杭先端支持	力係数		砂質土地盤 (礫質土地盤を含 む)	6. 5≦N' ≦25	280		
							粘性土地盤	3. 5≦N' ≦25			
				βsw:砂質土地盤にお				2≦Ns' ≦25 2≤Nc' ≤15	1. 2		
支持ナ	7 笛 7	定 士	_ 								
又 持 7	, 异 ;	逆 力	工,	N' 算定にあた Ap : 杭先端の有数	 底羽根部の外径) Ns' : 杭の周囲の地盤のうち砂質土に接する部分の N'の平均値である。ただし、Ns'の算にあたっては、N' <2 の場合 N' =0、N' >25 の場合 N' =25 とする。 Nc' : 杭の周囲の地盤のうち粘性土に接する部分の N'の平均値である。ただし、Nc'の算にあたっては、N' <2 の場合 N' =0、N' >15 の場合 N' =15 とする。 Ls : 杭の周囲の地盤のうち砂質土に接する長さの合計(m)。 						
± -	施コ		盤	強固な中間層がある地		··-					
施工	施コ	能	率	100m~140m/日							
		音源より3		60 デシベル以下							
公 害		振源より1		40 デシベル以下							
		- 事	項	無排土施工、セメン				<u> </u>			
	会社名			性能証明番号	取得年月日	適用杭径	適用先端地盤		杭長 備考		
株式会	€社 新	生工務		(財)日本建築総合	U00 10 00	φ 76. 3	砂質土地盤 (礫質土地盤を含		かつ 以下		
1	2–758–1			試験所 性能証明 第 09-02 号 改	H22. 12. 20	~ φ190.7	粘性土地盤 130D かつ 11.5m 以下				

	エ 法	名			刃□	□法		
L-11	工法の種	類			回転貫	入工法		
	杭 の 種	類			鋼管	雪杭		
	概	要	備えた杭打機によっる。特長として、大	って回転させて てきな地盤反力 可能としている	「地盤中に貫入 」を受ける補強	し、これを地盤補 材先端部をピース	合した鋼管を回転貫入 強材として利用する技 化して、先端鋼管より 術内容は、単杭状の支持	術であ 細径の
			①補強材の建て込み	②補強材のセット	③回転貫入開始	④ 維手作業	5)回転費入完了 ⑥施工完了	
施工法	施工順	序						,
	支持力発現力	式						
支持層	の確認方	法	スクリューウエイト貫	入試験				
支持力	」 算 定 方		N' <3のとを 換算 N 値 N' の求 N' =2 Wsw+0.06 N' =3 Wsw+0.05 ここに、Wsw:スウェーデン	補強材の極限 TRu はスクリコ 近の地盤においの 中 ない でいまい でいまい でいまい でいまい でいまい でいまい がいまい でいまい で	支持力) .一ウエイト貫入 ける補強材先端 2) $Ap = \pi Dw2$ [N′ の平均値 、N′ > 20 の ((礫質土含む) 地盤) ンディング試験 グ試験における	支持力係数 (αsw= /4 。ただし、N′ は 3 ・ときはN′ =20 と 地盤) における荷重(kN)	=160) ≦N' ≦20とする。 する。	
施工	施 工 地	盤	砂質土地盤、礫質土	.地盤、粘性土地	也盤			
	施工能	率	100m~200m/日					
	要が分かるホ <mark>-</mark> のアドレス等	_	https://yaiba.co.	jp/				
	会社名		性能証明番号	取得年月日	適用杭径	適用先端地盤	適用杭長	備考
	式会社刃 -548-3691		GBRC 性能証明 第 19-04号 改 2	2020 年 1 月 11 日	Ф89.1mm~ Ф190.7mm	砂質土 粘性土	施工地盤面より130D D:本体鋼管径	

	工法	名		Σ —	i 工法 (シグマ・ア	 イエ法)							
L-12	工法の種	類			 回転貫入工法								
	杭 の 種	類											
	概	要			:スパイラル状の翼部 也盤中に貫入させ,こ								
施工法	施工順	序	1. 杭の立て込み 杭を吊り込んで回転駆動治 具に装着し、下部を振れ止め装置で固定し、施工機械 を杭芯にセットする。		確認後、回転 下杭を負 力を加え貫入 機械式総	t入後、溶接または 終手により上杭を接 に貫入を続ける。	支持地域 大型	が確ルク					
	支持力発現力	5式	先端翼による先端地	盤抵抗									
支持層	の確認方	法	回転トルク値										
支持プ	」算 定 方	式	A: 補強材先 D _W : 先端翼径	(N)の平均値 合 N ≦ 20とす	漬(m²) πDμ²/4 =平均Ν 値 -る。								
施工	施工地	盤	玉石礫層・地中埋設:										
加巴 工	施工能	率	100~200m/日·台										
 小 宝	騒音(音源より)		重機作動音以外、駅 ほぼなし	館首なし 一									
公害	振動(振源より	10m) 項	無廃土										
	<u>に の </u>	- 7.	性能証明番号	取得年月日	適用杭径	適用先端地盤	適用杭長	備考					
03 アキ 07/ 成 05/ キ 09/ ジ 33 第 02/ 地	会計室ソイル -3273-9876 -ユテック(株) 6-291-7914 5用開発(株) 2-882-5001 -ーキ工業(株) 85-32-7334 オテック(株) -5955-0711 行協地水(株) 4-951-4180 研テクノ(株) 2-786-5015		(財)日本建築総合 試験所性能証明 第 10-13 号	H22. 8. 3	軸径-翼径 φ89. 1-270, 350 φ101. 6-300~400 φ114. 3-300~400 φ139. 8-350, 400 φ165. 2-400	砂質土地盤 (礫質土地盤含む) 粘性土地盤	1300以下						

	工 法 名	D-TEC PILE工法Ⅱ							
L-13	工 法 名	回転貫入工法							
	工法の種類	鋼管杭							
	概 要	本工法は、鋳鋼製の螺旋状の翼を有する先端部品と一般構造用炭素鋼管または建築構造用炭素鋼管から構成される杭を施工機械により回転貫入し、基礎下部に配置する工法である。本工法は、従来のD-TEC PILE 工法(GBRC 性能証明第 02-20 号 改)の拡底型の先端翼径が拡大され、先端翼径/鋼管径を 3~3.5 倍としていることで、小径の鋼管を用いても比較的大きな支持力の実現を図るものである。また、先端翼径の拡大により従来工法の杭径を 1~2 サイズ小さくすることが可能であり、現場施工性の向上およびコスト低減を実現できる。							
施工法	施工順序								
		①杭建で込み ②回転貫入 ③施工時回転トルク に よる打止め管理							
	支持力発現方式	杭先端翼による先端抵抗							
支持層	の確認方法	杭回転貫入時の施工機械回転トルク値							
支持力	力 算 定 方 式								
16	施工地盤	_							
│施 エ │	施工能率	150~200 m/日							
	要が分かるホー のアドレス等	https://www.gbrc.or.jp/assets/documents/center/gijyutu_ninsho_pdf/gbrcat_14-29.pdf							
	会社名	性能証明番号 取得年月日 適用杭径 適用先端地盤 適用杭長 備考							
TEL: 0742-	・ウ ス 工 業 (株) -70-2188 /www.daiwahouse. co.jp/	(財)日本建築総合 試験所 性能証明 第 14-29 号 改 1 (更 1)2020. 5. 15							

	エ	;	去	名	PPGI	法
L-14	エ	法(の 種	類	回転貫入コ	 L法
	杭	の	種	類	鋼管杭	
	概			要	本工法は、先端支持力を有効に利用するため、戦 摩擦力を有効に利用するため、杭径より外側に吐出 構成しており、鋼管杭の頭部に回転トルク及び圧力 部では、無排土な状態で基礎下部に配置する工法で	出するものが無いストレート型の2種類から し力を与えることによって回転貫入し、地上
施工法	施	I	順	序	①杭の建て込み	③支持層定着
	支持	寺力多	· 現方	式		
支持層					地盤調査データ、トルク値、貫入	
支持力		一	方	式	R _a = 1/3 {α swN' Ap+(β swNs' Ls+γ swNc' Lc) φ ω sw: SWS試験結果による支持力係数 拡底型の場合: α sw = 241 ストレート型の場合: α sw = 239 N': 杭先端部の平均N'値 拡底型の場合: 杭先端部より上へ1Dw、下へストレート型の場合: 杭先端部より上へ5D、下へるトレート型の場合: π D² / 4 + 0.5 (π Dw² / 4 - π ストレート型の場合: π D² / 4 + 0.5 (π Dw² / 4 - π ストレート型の場合: π D² / 4 + 0.5 (π Dw² / 4 - π ストレート型の場合: π D² / 4 β sw: SWS試験結果による支持力係数 拡底型の場合: β sw = 1.5 ストレート型の場合: β sw = 5.1 Ns': 杭が砂質土地盤に接する部分の平均N'値(N' Ls: 杭が砂質土地盤に接する部分の杭長(m) γ sw: SWS試験結果による支持力係数 拡底型の場合: γ sw = 1.7 ストレート型の場合: γ sw = 9.0 Nc': 杭が粘性土地盤に接する部分の平均N'値(N' Lc: 杭が粘性土地盤に接する部分の杭長(m) ψ:杭の周囲の有効長さ(m)	-1D _W 範囲内の平均N'値 2D範囲内の平均N'値 D ² /4) >10の時N'=10, N'≦1.5の時N'=0)
	施	エ	地	盤	玉石混じり地盤の場合、要検討。	
施工	施	I		率	150m~300m/日	
٠, -			源より3		70 ホン以下	
公害			源より1 事		60 デシベル以下無廃土	
			尹	块		
		バー			性能証明番号 取得年月日 適用杭 (財)日本建築総合試験 所 性能証明 089.1~ H28.8.30	~ 砂質土, 礫質土 1300 以下
04	/-35	9–41	11		第 04-14 号改 3	粘性土 1300 坎下

	工法	名		SMD (ス	ーパーミニドリル)	杭SS工法						
L-15	工法の種	類			回転貫入工法							
	杭 の 種	類			鋼管杭							
	概	要	杭先端部に杭径の2ヶ 入させる工法。杭先幼 の支持力を実現する。	端部の管内は開立								
施工法	施工順		杭を を杭 め装	①林の建て込み 2枚の原 行いたから、焼気塩 が回転力 はで開定する。 場場中に を変わ	服動装置に 下杭を適切な位置で打ち を与えて 止め、中杭あるいは上杭 回転貫入 を接続する。	④杭の修工売了 所定の深度まで回転員入させ で打り返送が、回転キャンプを 外もて施工を施了する。						
	支持力発現方	式	杭先端部に取り付け									
支 持 層	の確認方	法	スウェーデン式サウンディング試験結果による換算 N値と試験杭のトルク値または単位貫入量 に対する軸回転数との比較									
支持力) 算 定 方	式	但し, Navg N':SWS 試 N'=3V ここに、Wsw: Nsw:S Ap: 杭先端 Ap=2	直支持力(kN) (係数で 250 端部から下に 1 C 先端平均均算 N (=20 とは果から求 Wsw+0.05 N sw SWS 試験における (関) 試験における (有効断面積(㎡)	まる地盤の換算N値 る荷重 (kN) 5半回転数 (回/m) で下式による。 ∝π [(Dw/2) ^2−(D/2 [径 (m)	g≦20 とし, N	avg>20 の場					
** T	施工地	盤	強固な中間層がある場	場合などは補助	工法を用いる							
施工	施工能	率	120~200m/日									
	要が分かるホ - のアドレス	_	SMD杭工法協会 http://www.smd-kui.	jp/								
	会社名		性能証明番号	取得年月日	適用杭径	適用先端地盤	適用杭長	備考				
積水	スチール(株) <化学工業(株) トラバース (株)本陣		GBRC 性能証明 第 09-23 号	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・								

	エ	ヨ	ţ	名			ガチラ-SS	3工法					
L-16	エ	法σ) 種	類			回転貫入	工法					
	杭	の	種	類			鋼管杭	Ţ					
	概			要	本工法は、細径鋼管に長方形の拡翼及び三掘削刃を取り付けたく 貫入させることによっ 端拡翼部を未掘削地盤 せながら、地中にねじ させる工法である。	角形の鉛直 い先を回転 て、くい先 に食い込ま	拡翼の勾配 1 0 8 082=9H	Wa=800 掘削 Wb=200	水神(c 配 水 棚 4 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年	h(mm)	цtb=16		
					①杭の建込み ②	抗芯に設置	3回転月	E入 ④杭	の継手落	穿接 ⑤設	置完了		
施工法	施	エ	順	序									
	支持	寺力务	き現プ	5式	杭先端翼部による拡底								
支持層	の }	確 認	方	法	試験杭により決定した	オーガ圧により	り確認						
支持力	算	定	方	式	3 LRa: 杭の長期 Ru : 杭の極限: α sw : 基礎ぐい: N' : SST に。 N' : 杭の先並 N' の第 の範囲 Ap : 先端の有:	支持力 先端支持力係数 よる地盤強度イ 端付近のN'の 算定範囲は杭先 とする。 効断面積(㎡)(D_1^2 /4+ 0.5 (π	数(αsw=245 ンデックス 平均値で、6≦ 端から下方に 拡翼並列内接	 ≦ <i>N</i> ' ≦25と : 1 Dw(Dw ∉円の面積	: 拡翼部の				
					Ар	0. 0231	0. 0317	0. 0417	0. 0572	-			
施工		エ			200m~250m/日								
工法の概要				-	http://www.ondagumi.d	 co.jp/							
	会社				性能証明番号	取得年月日	適用杭径	適用先端	地盤	適用杭長	備考		
(4	㈱恩田組				GBRC 性能証明 第 07-23 号	H20. 1. 8	φ89. 1 φ101. 6 φ114. 3 φ139. 8 φ165. 2			13. 2m			

	エ	;	去	名			かん兵衛コ	 L法		
L-17	エ	法(の 種	類			回転貫入	匚法		
	杭	の	種	類			鋼管杭			
	概			要			する先端金物を先端に 補強材の支持力を見込			レートタイ
					1. 補強材芯セット 鉛直確認	2. 回転 鉛直			. 打設終了 5.	頭部処理
施工法	施	I	順	序	GL SP	EDI	転 溶接接合 外観検査 下補強材	上補強材	1	自部処理 ・ベル確認
		+ 1 5	M T□ -		計画深度	÷ 1			W.G.	R 3
支 持 層			発現方 2 方		先端支持カ+周面原 トルク管理と独自の					
支持力					・SWS 試験結果によ $R_{\rm as} = \left\{ \alpha_{\rm s} \cdot N' \cdot A_{\rm p} \right\}$ ここに、Ras:補強Ras:先端支持力係 $\overline{N'}$:補強材先端地 $A{\rm p}$:補強材の有効的 $\overline{N_{\rm s}}'$:補強材周面地 $\overline{N_{\rm g}}'$:補強材周面地 $\overline{q_{\rm u}}'$:補強材周面地	s も地盤の + (3.9·N _s) は材 1 本あた は数 (砂質土 地盤の平均) 地盤が砂質土 地盤が砂質土 地盤が粘性土	件容支持力算定式 $L_s + 0.46 \cdot q_u \cdot L_c \cdot \psi$ $L_s $, 容支持力(kN	平均 N'値	さ(kN/m²)
	施	エ	地	盤			· º/ バックホウで施工でる	<u></u> きる		
施工			能		小型機械のため高刻					
工法の概念	要が	分か	るホ-		https://sentanjib					
	会社	上名			性能証明番号	取得 年月日	適用杭径	適用 先端地盤	適用杭長	備考
(一社)先達 グループ https:// sentanjik					GBRC 性能証明 第 13-08 号	2019年9月9日	鋼管外径: 89.1~165.2 mm	砂質土、 粘性土、 ローム	鋼管外径の 130 倍 以内	

	T :+ P	ムノに体ニコーナナ
	工法名	かん兵衛ラフト工法
L-17R	工法の種類	回転貫入ラフト工法
	杭の種類	鋼管杭
	概 要	本技術は、掘削爪と孔を有する先端金物を先端に溶接接合した地盤補強材(ストレートタイプ)を回転貫入して埋設し、補強材の支持力と基礎底面下の地盤の支持力を見込む複合地盤補強工法である。本技術では、基礎のみ、補強材のみ、複合地盤のそれぞれの載荷試験を実施し、基礎と補強材個々の載荷試験結果と複合地盤の載荷試験結果の基礎と補強材を分離した結果との比較によって、複合地盤の補強材の支持力に基礎と補強材の相互作用による寄与係数を導入している。
		1. 補強材芯セット 2. 回転貫入 3. 継手施工 4. 打設終了 5. 頭部処理 鉛直確認 外観検査
施工法	施工順序	正回転 溶接接合 外観検査 正回転 頭部処理 レベル確認 下補強材
		計画深度
	支持力発現方式	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
支持層の	確認方法	トルク管理と独自の衝撃載荷試験
支持力 🕯	算定方式	・SWS 試験結果による地盤の許容支持力算定式 本工法は複合地盤補強工法であり、基礎と補強材の支持力を見込む。 $q_{\rm ra}=\left(1-a_{\rm s}\right)\cdot q_{\rm fu}/F_{\rm s}+a_{\rm s}\cdot\left(Q_{\rm a}/A_{\rm p}\right)$ ここに、 $q_{\rm ra}:$ 補強材 1 本あたりが負担する複合地盤の許容支持力度 $({\rm kN/m^2})$ 、 $a_{\rm s}:$ 負担面積比で基礎面積に対する補強材の負担面積の比($a_{\rm s}={\rm Ap/A}$)、 $q_{\rm fu}:$ 基礎の極限支持力度 $({\rm kN/m^2})$ 、 $q_{\rm s}:$ 複合地盤の補強材 1 本あたりの許容支持力 $({\rm kN})$ 、 $q_{\rm s}:$ 本語の極限支持力度の第定 $q_{\rm fu}:$
	施 工 地 盤	に摩擦を考慮する層厚(m)、φ:補強材周長(m)、 Fs:安全率(長期3.0、短期1.5) 建駐車、クローラー式、小型バックホウで施工できる
施工	施 エ 地 盤 施 エ 能 率	建駐車、グローブー式、小型パッグボリで施工できる 小型機械のため高効率
工法の概要が	が分かるホー	小生版版のため同効率 https://sentanjiban.or.jp
	会社名	性能証明番号 取得年 適用杭径 適用先端地盤 適用杭長 備考
	也盤技術グループ tanjiban.or.jp	GBRC 性能証明 2019 年 鋼管外径: 砂質土、粘性土、

	工法	名	スーパーNP-PACK工法 eco						
L-18	工法の種	重 類	回転貫入工法						
	 杭 の 種	4	鋼管杭						
	概	要	スーパー NP-PACK 工法 eco は、先端に独自形状の 3 枚の掘削刃を取付けた鋼管を地盤中に回転圧入させ、これを杭状地盤補強材として利用する技術である。本工法による補強地盤の鉛直支持力は基礎底面下の地盤の支持力を無視して杭状地盤補強材の支持力のみを考慮することとしている。						
施工法	施工順序 I II III IV V I.: 鋼管ぐいを吊りくい芯に合わせる。 II.: くい芯を合わせ鉛直性の確認を行う。 III.: くいを無回転圧入し、次に正回転を加え圧入する IV.: 最初のくいを貫入し終えたら2本目以降は溶接により継ぎ足し、圧入していく(継ぎ足しがある場み)。 V.: 所定の打止め深さに達したら圧入力を一定以上に保ち、くいを回転圧入し20mm貫入するのに到回転数が試験杭から得られた目標値以上であることを確認し打ち止め管理とする。								
	支持力発現力	ち式	先端抵抗と周面摩擦抵抗						
支 持 層	の確認方	法	支持層の確認方法は、地盤調査結果に基づいての設計深度の確認と地盤支持力度の確認をもって管理確認とする。 1)設計深度の確認は、設計深度まで回転圧入し、貫入中のトルク値と圧入力値の増減が地盤調査N値の変化と整合性があるかを確認し、設計深度の確認とする。 2)地盤支持力度の確認は、設計深度に達したくいを一定の圧入力で回転圧入し、20mm 回転圧入するのに要した回転数を測定する。その値がマニュアルに定めるN値とNnpの関係以上であることを確認する。						
支持力	算 定 方:	式	LR_a =1/3 R_u 記号 LR_a : 地盤補強材の長期許容支持力(kN) R_u : 地盤補強材の極限支持力(kN) 地盤補強材の極限支持力 R_u は SWS 試験結果より次式より算定する。 $R_u = \alpha_{sw} \overline{N} A_p + (\overline{\beta}_{sw} N_s' L_s + \gamma_{sw} \overline{q_u'} L_c) \psi$ 記号 α_{sw} : 地盤補強材先端部の支持力係数(α_{sw} =360) \overline{N}' : 地盤補強材先端から上下に25cmの区間のSWS試験から求められる \overline{N}' の平均値。ただし、 $5 \le N' \le 20$ とし、 $N' < 5$ の場合は $N' = 0$ 、 $N' > 20$ の場合は $N' = 20$ として N' を算定する。 A_p : 地盤補強材の先端有効断面積(m^2) β_{sw} : 周面地盤が砂質土地盤の場合の周面摩擦力係数(β_{sw} =6.6) \overline{N}_s' : 地盤補強材が砂質土地盤に接する部分の N' 値の平均値。ただし、 $2 \le \overline{N}_s' \le 20$ とし、 $N_s' < 2$ の場合は $N_s' = 0$ 、 $N_s' > 20$ の場合は $N_s' = 20$ として N_s' を算定する。 A_s : 地盤補強材が砂質土地盤に接する部分の長さ(A_s) ただし、先行掘削部及び地盤補強材先端から上方0.25mの区間を除く。 A_s : 地盤補強材が粘性土地盤に接する部分の A_s : 他の平均値(A_s) ただし、 A_s : A_s : 地盤補強材が粘性土地盤に接する部分の長さ(A_s) ただし、 A_s :						
施工	施 工 地 施 工 能	率	砂礫・玉石混じり地盤の場合、要検討。 200~250m/日 (φ139.8mm)						
公害	騒音(音源より3 振動(振源より1 他の事	10m)	50db 以下 55db 以下 無廃土						
	<u>□他 の 争</u> 会社名	- 共	無廃工 性能証明番号 取得年月日 適用杭径 適用先端地盤 適用杭長 備考						
	サステック(株) -6631-6561		GBRC 第 12-21 号改 H27. 12. 1. か 101. 6 本性土、砂質土 130D または 18m の小さい方						

	工法	名		=:	ı—バー	-スパイル	V工法				
L-19	工法の種	類			回転	貫入工法	Ę				
	杭 の 種	類			Š	鋼管杭					
	概	要	ニューバースパイル を回転貫入し、これを助 り軸径を拡大している。 軸鋼管の径は、細径の	也盤補強材として。このため拡翼の	利用する 曲げモ-	る技術で ーメントを	ある。先端拡 低減でき部れ	翼を取付 オ費のコン	ける鋼管は ストダウンが	軸鋼管よ	
施工法	施工順	序									
			① 補強材の建込み	②補強材の固	定(③回転貫力	入 ④補弘	館材の接	続 ⑤貫.	入完了	
	支持力発現方	式	拡翼による先端支持力]							
支持層	の確認方	法	回転トルク値または貫入量								
			Ra = $\frac{1}{3}$ (α sw·N'·Ap Ra :補強材の長期許 α sw:補強材先端支持	容鉛直支持力(kN f力係数 地盤			7)範囲	αsw			
				砂質土地盤			≦N'≦20	315			
支持力	」算定方	式	$ar{N}'$:補強材の先端 $2.3 \le ar{N}' \le 20$ とする。Nwの範囲とする。なお、砂質土地盤でNが 2.0 Ap:補強材先端の有 $\frac{\pi}{12}$	N'の算定範囲は, $ar{N}'$ の算出にお $ar{N}$ とする。	均値で 補強材 ハて、N'〉	,砂質土 先端から >25 の場1	下方に 1Dw(Dw:拡翼 生土地盤	部の外径),	上方に 1D	
 施 エ	施工地	盤	強固な中間層がある場	晶合、要検討。							
池 土	施工能	率	~200m/日			·					
	要が分かるホー Dアドレス等	-	https://www.shinseiko	mu.co.jp/		,		Ţ	·		
	会社名		性能証明番号	取得年月日	適用	杭径	適用先端均	也盤	適用杭長	備考	
株式会 052-758-		務	(財)日本建築総合 試験所 性能証明 第 13-08 改 2	2013.7.2		mm~ 2mm	砂質土地類 粘性土地	怪、 世	軸鋼管の 軸径の 130 倍以下		

	エ 法	名			ューバースパ	ノル 冊丁注							
L-20	工法の種				<u>- ハ ヘハ</u> 転貫入工法/:	*							
	-			[日]									
施工法	板の種 概	類 要	ニュ 綱に が で が で が で が が に か で が に か で が に が に が に が に が こ で が で が に が こ で が に が こ で が に が こ で で が に が こ で で が で で で で で で で で で で で で で で で	または回転の動きたは回転の動きたいのできる。いたのでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、できないでは、できないでは、できないでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、	す刃を抗が、をこ用抗管、るはす先得低特とすを理おれて、る端ら騒徴でる圧を住工人ま盤る・し建とすういでに、を。低て物がるこのでは、	利刃を取り付けたフ ある。 祭し礫等を杭周辺に のでを の沈き、 の沈き、 のでき、 で圧入力と変い と及び では、 では では では では では では では では では では では では では	また。 移出さ 前に 使た計をでいる。 が抗さ が抗さ がたがった。 がたがでがった。 がたがった。 がたがった。 がたがった。 がたがった。 がたがった。 がたがった。 がたがった。 がたがでがった。 がたがった。 がたがでがった。 がたがでがった。 がたがでがった。 がたがでがでがでがでがでがでがでがでがでがでがでがでがでがでがでがでがでがでが	設計の出	長期支				
	施工順	序		**************************************									
	支持力発現力	- - +	杭の固定杭の	か正入 お	<u>アンターヒ</u> 先端支持力+ハ	ニング施工 国南麻協力	ジャッキ	・計測器					
			杭として使用する場				値と+質粒』	大図との					
支持層	の確認方	法	アンダーピニングエジ										
			Ra=	$Ra = \frac{1}{3} \{ \alpha \text{ sw} \cdot \vec{N} \cdot Ap + (\beta \text{ sw} \cdot \vec{Ns} \cdot Ls + \gamma \text{ sw} \cdot \vec{Nc} \cdot Lc) \psi \}$									
				記号		地盤	N'の範囲	支持力值	系数				
			α sw :杭先端支	持力係数		砂質土地盤	4≦N'≦25	350					
				における周面摩 持力係数	擦に関する支	(礫質土地盤を含	4≦Ns'≦15	4					
			γsw : 粘性土地盤	における周面摩 持力係数	擦に関する支	む) 粘性土地盤	3≦Nc'≦15	4					
支持力	」算定方	式	N' : 杭の先端付近の N'(SWS 試験による地盤の強度インデックス)の平均値である。ただし、N'算 定にあたっては、N'<2 の場合 N'=0、N'>25 の場合 N'=25 とする。 Ap : 杭先端の有効断面積(m²) Ap= π D²/4 (D: 軸部の径) Ns' : 杭の周囲の地盤のうち砂質土に接する部分の N'の平均値である。ただし、Ns'の算定にあた										
			_ Nc': 杭の周囲の地	盤のうち粘性土	に接する部分の	st N'=25 とする。 の N'の平均値であ	る。ただし,N	- c'の算定(にあた				
			Ls : 杭の周囲の地 Lc : 杭の周囲の地	2 の場合 N'=0, 2盤のうち砂質土 2盤のうち粘性土 周長(m)。ψ = π	に接する長さの に接する長さの								
t/c -	施工地	盤	強固な中間層があるな										
施工	施工能	率	100m~140m/日	※アンダーピニ	ング施工の場	合は、現場状況に	よる。						
	騒音 (音源より)	30m)	60 デシベル以下			-							
公 害	振動(振源より	10m)	40 デシベル以下										
	他 の 事	項	無排土施工、セメン	ト不使用	·		·		·				
	会社名		性能証明番号	取得年月日	適用杭径	適用先端地盤		用杭長	備考				
株式会	社 新生工務	ζ	(財)日本建築総合 試験所 性能証明	H22. 8. 26	φ89.1 ~	砂質土地盤 (礫質土地盤を含	I) かつ I 以下					
052	2–758–1750		第 10-14 号	1122. 0. 20	φ 139. 8	粘性土地盤) かつ i 以下					

	工 法 名				アロー	スピート	·工法				
L-21	工法の種類				回車	に貫入工	法				
	杭の種類					鋼管杭					
	概要	本工法の特徴は、先端翼部中央に設けた圧抜き穴と、窓抜き掘削刃との相乗効果によって翼の掘削推進力の効率向上をさせていること、及び開度 30 度で翼の先端を切り取り、砂質土地盤における貫入性の確保に優れた特性を発揮する地盤補強である。 適用できる建物は、①地上 3 階以下②建築物の高さ 13m以下③延べ面積 1500 ㎡以下(平屋に限り 3000 ㎡以下)となっている。									
施工法	施工順序	→鉛直確認 →回転貫入 →打ち止め →補強材頭部	→杭芯セット →逃げ芯確認 {±30 mm以内} →鉛直確認 (傾斜 1/100 以内) →回転貫入 →打ち止め →補強材頭部処理 →頭部高さ・芯ずれ確認								
	支持力発現方式	杭先端翼部の)固く強度が高	高い地層・	への貫入						
支持層	の確認方法	補強材長が設	 と計深度まで3	 到達							
支持力	力 算 定 方 式	Ra (II) 短期に Ra 補強材の耐力 軸部 D 材(mm) 材 89.1 101.6 STK STK 114.3	Name								t1=12 (mm) 104.5 85.7 104.5 116 105 122 105.5 91.2
14 _	施工地盤	砂質地盤(礫	質地盤含む)・	粘土質地	2盤						
施 エ	施工能率	150m/日									
	要が分かるホー のアドレス	URL: http	o://www.sigm	nab. co. jį	0						
	会社名	性能証明番·	号 取得	年月日	適月	適用杭径 適用的		適用先端地盤		用杭長	備考
株式会	€社シグマベース	GBRC 性能証 第 17-36 号	202	性能証明番号取得年月日適用杭径適用先端地盤GBRC 性能証明 第 17-36 号2021/3/3中89.1 mm 中101.6 mm 中114.3 mm砂質地盤 (礫質地盤含む) 粘土質地盤						130D (D:軸径)	

	エ	ž	去	名			ジャスティス工法	<u> </u>		
L-22	エ	法(の 種	類			回転貫入工法			
	杭	の	種	類			鋼管杭			
	概			要	本工法は、細径鋼管にものを回転させることの形状は、軸鋼管が5比較すると剛性が高く方法は、設定した施工	とによって地盤 も端拡翼に鉛直 く、施工に際し	中に貫入させ、これ 接合することから、 抗先端地盤を乱す影	いを杭として利用で 軸鋼管側面に拡動	ける技術である。 翼を取り付けたね である。本工法の	。本杭 構造と の施工
施工法	施	I	順	序	杭芯に記	② 株の建て込	3 回転貫入	4 ⑤ 抗の継手 設置:	完了	
	支持	寺力多	き現力	5式	先端抵抗					
支持層	の [:]	確認	图方	法	1回転あたりの単位貫	入量を計測し	支持層確認			
支持力	算施	∵定	方	式盤	$rac{N'}{N'}: i$	就先端付近の N'の N'の p 定範囲は、 i る。 なお、粘性土地盤の > 25 の場合 N' = 25 砂質土地盤の N' 算 p 切場合 N' = 25 とし た端地盤の土質が i 力 y でを行い土質の i 先端の有効断面積 o w = 200 mm の場合 o w = 350 mm の場合	度インデックスを採用で 平均値で、 $3 \le N' \le 15$ 抗先端から下方に 500 mm N' 算定にあたっては、 $Nとし、下方算定範囲内に定にあたっては、N' < 1、下方算定範囲内に自沈下明確な場合は、近隣デの判別をする。$	とする。 、上方に 250mm の範胞 V<2.25 の場合 $N'=自沈層が無いものとす。1.5$ の場合 $N'=0$ 、 $N層が無いものとする。一夕との比較およびサ$	0、N' ける。 '>25 また、 ナンプ	
施工		ェ	能		φ 60. 5—140m/日	ϕ 76. 3—1	50m/日	14.3—160m/日		
木 一 .	<u>ل</u> ،	ペ -	- :	ジ	https://justtrading	;. jp/				
	会社	t名			性能証明番号	取得年月日	適用軸径・翼径	適用先端地盤	適用杭長	備考
ジャスト 03-		ーデ 5-48		グ(株)	GBRC 性能証明 第 10-15 号	H22. 8. 3	φ 60. 5, φ 76. 3 φ 114. 3 Dw200, Dw350	砂質·礫質地盤 粘性土地盤	13.5m以下 11.5m以下	
							,		1	<u> </u>

	工法	———— 名		,	ハットウィング	 ^ブ 工法					
L-23	エ法の	種 類			回転貫入工	 法					
	杭の	種類			鋼管杭						
	概	要	有効に働き、支持力をまた、補強材料のは場合でも、補強地盤と適用できる建物は、限り3000 ㎡以下)とな	在実に確保できる 保有耐力の範囲で して必要な支持力 ①地上 3 階以下	ことである。 、軸径比を大き を確保できるこ	、凹型部にも土がつま ぞくすることにより、原 とである。 * 13m以下③延べ面	地盤の支持力症	が小さい			
施工法	施工川	頂 序	補強材 が が が が が が が が が が が が が	00 以内)							
	支持力発現	見方式									
支持層	の確認	方 法	補強材長が設計深度まで到達 or 管理トルク値の 70%以上								
支持プ	」算定:	方式	とする。 $Ra=rac{1}{3}R_u$ ・記号 Ra :補強 Ru :補強 Ru :補強な補強材の極限鉛直支定する。	計容鉛直支持力(・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	は、式 (i) に ・・・・式 (i 支持力(kN) カ (kN) ーデン式サウン	ンディング試験の結					
t/=	施工士	也盤	砂質地盤(礫質地盤含む)・粘土質地盤								
施工	施工能	能 率	150m/日								
	要が分かる: のアドレス	ホー	U R L : http://www	U R L : http://www.sigmab.co.jp							
	会社名		性能証明番号	取得年月日	適用杭径	適用先端地盤	適用杭長	備考			
株式会	:社シグマベ	ース	GBRC 性能証明 第 15-17 号 改 2	2020/12/15	Ф89.1 mm Ф101.6 mm Ф114.3 mm	砂質地盤 (礫質地盤含む) 粘土質地盤	130D (D:軸径)				

	工 法 名	DM(ダブルメタル)工法					
L-24	工法の種類	回転貫入工法					
	- 杭の種類	鋼管杭					
	概要	本工法は、小口径鋼管の先端部に鋼管径の3.0倍及び3.5倍の大きさの鋳鉄製の螺旋翼(先端翼)を取付けた地盤補強材である。鋼管頭部に回転トルクを与えることによって、先端翼が地盤から推進力を受け、地上部には無排土の状態で回転圧入する工法である。補強材の先端は先端翼によって閉塞しており、鋼管と先端翼とはボルト、ナットにより現場でも接合可能である。また先端翼は、鋳鉄の特徴を生かし根元と端部で厚さを変えており、先端翼がたわむことなく地盤支持力を効率よく受ける構造となっている。					
施工法	施工順序		_	3 回転貫入 網駅に回転力を与えて地 盤中に回転買入させます。	下杭を適切な位置で打ち 所定	の深度まで回転貫入 芯ズレ	施工完了 が辞音値内である 確認して施工完了し
	支持力発現方式	杭径の3.0倍、3.5倍の径を有する先端翼を杭先端部に取り付け支持層への回転圧入する。					
支持層	の確認方法	試験施工により決定した管理トルク又は、軸回転数で管理する。 管理トルク値は、3体の平均トルクの90%値とする。 管理軸回転数は、3体の平均軸回転数の90%値とする。					
支持力算定方式		Ra=(1/Fs)* αsw*Navg*Ap ここに、Ra:許容鉛直支持力(kN) Fs:安全率(長期荷重時 3、短期荷重時 1.5) αsw:支持力係数で 200 Navg:先端付近のN'の平均値 N':SWS 試験の結果から求まる地盤の換算N値で下式による。 N'=3Wsw+0.05Nsw ここに、Wsw:SWS 試験における荷重(kN) Nsw:SWS 試験における半回転数(回/m) Ap:先端有効断面積(㎡)で下式による。 Ap=(3/4)*π(Dw/2)^2 ここに、Dw:先端翼径(m) (φ290mm:0.0495 ㎡ , φ350mm:0.0722 ㎡)					
施工	施工地盤	周面摩擦を考慮しない為、周辺地盤の土質は問わない。					
公害	施 工 能 率 騒音 (音源より30m)	120~200m/日 70 デシベル以下					
	騒音 (音源より 30m) 振動 (振源より 10m)	70 テシベル以下 60 デシベル以下					
	他の事項	無排土					
	会社名	性能証明番号	取得年月日	適用杭径	適用先端地盤	適用杭長	備考
株式会社 本陣 052-722-3000 株式会社 イートン 054-664-2381 株式会社 サムシング 03-5566-0120		GBRC 性能証明 第 10-01号	H22. 04. 19	101. 6mm STK400	砂質土地盤 及び 粘性土地盤	最長 13.2m	小規模建設記載 小規模で記載 が出れて建る が、 がとする。